

平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370748

研究課題名(和文)「アジア英語留学」の動態と展望：日本の英語教育への示唆とインパクトの検討

研究課題名(英文) English Study by Japanese in Asian Nations: Its Dynamics and Future Prospects: An Investigation into the Implications for and Impact on English Education in Japan

研究代表者

W Petruschak (Petruschak, William)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：60176576

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、文献調査とヒアリング、現地調査、討論と成果公表という3点を基軸として研究を進めた。英語学習を目的とするアジア諸国への留学(「アジア英語留学」)が拡大している趨勢を踏まえ、その動向・実態を明らかにするとともに、日本の英語教育への示唆・インパクトについて検討した。具体的には、「アジア英語留学」の送り出し国(主に日本)・受け入れ国の外国語教育制度と社会言語学的状況、学習者の属性・動機・目的などを詳らかにした上で、言語観の変遷、送り出し国の英語教育制度・政策などに比較かつ総合的に考察した。研究成果として、論文等5件、学会発表11件(内、国際的研究発表7件)を挙げることができた。

研究成果の概要(英文)：Our research involved：1) literature review and interviews with concerned parties; 2) surveys and inspections in venue nations; 3) debate/discussion and dissemination of our results at conferences and in journals. We clarified the trends and current situation in English study in Asian nations, and its implications for and impact on English education in Japan. We detailed the foreign-language education policies and language situations in both “dispatching” nations (mainly Japan) and venue nations, and such things as the characters, motivations, and goals of those studying English in Asian nations. We then considered in a comparative and comprehensive manner such issues as changes in language attitude resulting from the experience of English study in Asian nations, and how it may affect the English-education systems and government policies of “dispatching” nations. Our research produced 5 academic papers and presentations at 11 academic conferences (7 of them international).

研究分野：英語教育学

キーワード：アジア英語留学

### 1. 研究開始当初の背景

今日、英語の学習・習得を目的として、欧米やオセアニアの英語圏ではなく、アジア諸国に留学する、いわゆる「アジア英語留学」が増えている。この現象はすでに韓国、中国などで10年ほど前から見られるものであるが、最近では日本人も数多くアジア諸国で英語を学んでいる。特に、シンガポールやフィリピンなどの英語公用語国は留学先として人気が高い。

この現象については、近年メディア報道などで見聞するものの、学術的成果は管見の限り極めて乏しく、主にアジア域内の高等教育留学に関するいくつかの調査研究の先行例を除けば、大学の留学・語学研修プログラムの教育実践報告が散見される程度である。

しかし、「アジア英語留学」の活発化は、アジア域内の社会言語学的環境や学習動機が多様化、さらにはグローバル化するアジアの人々の言語観の変化を反映しているとも考えられる。また、留学とは、学習・技術習得やキャリア形成といった個人的営為であるにとどまらず、より巨視的に見れば、各国の教育政策や人材育成戦略、社会階層移動、教育機関・産業の動向に関連するものである。したがって、「アジア英語留学」の増大は、将来的に日本の英語教育の機能や人材育成の方向性に少なからぬ示唆、インパクトをもたらす可能性がある。

そこで本研究では、「アジア英語留学」の動態と英語教育への示唆・インパクト、言語観の変化との関連について、特に日本・韓国・中国の状況を比較的に考察し、併せて今後のアジア諸国の社会編成の再編や地域ネットワークの多様化の可能性を検討する。

### 2. 研究の目的

本研究においては、「アジア英語留学」を、英語学習を主たる目的としたアジア諸国への留学と位置づけ、基本的に留学期間の長短は問わない。留学先は大学付設の語学教育機関、民間の語学学校などを想定し、大学学部・大学院留学や技術習得のための長期滞在は対象に含めない。その上で、本研究では、文献研究、現地調査および討論によって、次の諸点を明らかにしたい。

#### (1) 「アジア英語留学」の基本的条件と動向

「アジア英語留学」の基本的な条件として、送り出し国・受け入れ国の外国語教育制度・環境および社会言語学的背景、留学生政策、学習者の基本的属性・数などの基本事項、留学動機・意識、留学先選択の条件、各アクターの「アジア英語留学」への期待の内容・水準 などの変遷を国際情勢や経済状況を踏まえつつ明らかにする。

#### (2) 言語観（特に英語観）の変化と留学の多様化の関連

今日、「国際語としての英語」や World

Englishes の議論も盛んだが、そのような英語観の変遷が、「アジア英語留学」の原因と結果において、いかなる関連・影響を有するのかを、理論と事例の双方から検討する。

### 3. 研究の方法

本研究は研究期間中に、文献調査とヒアリング（「アジア英語留学」の基本的条件の分析と調査アジェンダ設定）、現地調査（個別事例調査とアジェンダの検討）、討論と成果公表（動態の分析・記述、将来展望のまとめ）という3点を基軸として研究を進めることとした。その際、すでに申請者に研究の蓄積があるものは積極的に共有し、研究の迅速化・深化に努めた。研究の進行に際しては、研究会合および連絡を密に行き、ミッションの共有を常に確認していくとともに、公表成果に対するフィードバックを重視した。役割分担を極力効率化し、各研究者が各々の研究に特化することなく、常に知見の共有を図っていくよう努めた。

また、多様な研究視点と新しい動向の考察を強化すべく、「アジア英語留学」の活発化が先行している韓国、中国に関する調査を盛り込み、比較研究を行うことにした。そのため本研究では、韓国語、中国語の資料も積極的に活用した。

次に、各年度における具体的な研究進行過程について述べる。それぞれの年度において、4月に全体ミーティングを行い、その後、随時メールなどで密に連絡を取り合いながら研究を進行した。

2014年度については次の通りである。

(1) 「アジア英語留学」に関する先行研究の調査を行った。この際、外国語教育学を中心としつつ、法制度、国際関係、言語教育政策などを踏まえた調査を心掛けた。日本だけでなく、タイなど関係諸国での資料収集、研究者へのヒアリングを行い、最新の留学研究とその方法論に関する知見、および調査地の情報を収集・集約した。この段階では、比較的自由的なディスカッションを通じて、留学研究だけでなく、社会言語学、言語政策学、英語教育学など、関連領域の先行業績を横断的に検討し、研究グループ内で知見を共有した。

(2) 上記の作業をもとに、次の事柄についての知見・情報を整理した。

「アジア英語留学」の受け入れ国、送り出し国の外国語教育制度・環境、社会言語学的背景

受け入れ国における英語教育機関の実態  
学習者の基本的属性・数などの基本事項、留学への動機と意識、「アジア英語留学」への期待の内容・水準

この段階で、多くの情報に接したが、「アジア英語留学」に関する学術的な先行研究だけでなく、ジャーナリスティックな情報や、学校の宣伝など営利情報も多数見られ、それらによる有益な気づきもあった反面、不正

確・曖昧な情報やそれらの錯綜に苦心したことは否めない。このことから、各地の調査・視察を、当初予定よりも時間をかけて行うことの必要性を認識するに至った。

(3) この段階で得られた知見を整理し、向後の研究における調査枠組みや成果の想定について学会などで報告し、学界のフィードバックを受けた。

2015年度については次の通りである。

(1) 前年度に引き続き、文献研究を行ったほか、「アジア英語留学」の受け入れ国であるシンガポール、マレーシアなどにおける現地実態調査を実施し、英語学校などを中心に調査を行った。上述の通り、既存の文献情報については、情報の不正確さ、曖昧さの問題があったため、現地での観察を重視した。ヒアリングに際してはアポイントなどがとりづらい場合も多く、事前に可能な限りの情報収集をした後に、半ば「飛びこみ」的に取材を敢行した場合もあるが、相応の情報入手することができた。

(2) この段階で得られた知見を整理し、本研究の中間成果や展望について学会などで報告し、学界のフィードバックを受けた。また、学会などの機会に研究支援者、情報交換対象者を確保し、情報収集に努めた。

(3) 留学研究に関する研究手法・動向に関する知見を深めるため、関連の国際学会への視察を行った。

2016年度については次の通りである。

(1) 前年度に引き続き、文献研究、専門家へのヒアリングを行っていく。

(2) フィリピン、タイなどにおける「アジア英語留学」の実態調査を実施した。

(3) 研究の総括を行った。研究代表者、分担者が個別または共同で研究成果を公表するとともに、その結果を学会などで報告し、フィードバックを受けた。

2017年度(延長年度)については、研究の発展および成果公表を中心とし、各地での成果発表、情報の補足・更新に努めた。また、代表者と分担者との協働執筆により、本研究成果報告を完成させた。

#### 4. 研究成果

本研究課題は、申請時よりも少ない予算で採択、開始されたため、特に代表者は勤務校の個人研究費の活用、経費の個人負担などを強いられたが、それだけに、全体的には相応の研究成果をあげることができた。

研究成果の詳細な内容は、後掲の「主な発表論文等」に譲るが、各年度のアチーブメントについて若干述べておく。

2014年度は研究開始年度であったが、代表者がグアムの国際的学会において研究発表を行い、研究構想の全体像を提示し、フィー

ドバックを得た。また、日本「アジア英語」学会第34回全国大会においては、研究分担者2人を含む6人の会員によるシンポジウム「アジアにおける英語研修・留学」が実施され、調査研究と教育実践の両側面からの知見の共有がなされた。

2015年度は、本研究課題の共同研究としての成果がよく示された年度だったといえる。研究代表者と分担者、および分担者同士による共同発表として、数件の論稿公刊と学会発表が行われた。分担者単独での国際学会発表も行われ、本研究が単なる代表者主導ではなく、代表者・分担者の協働と役割分担とともに重視する体制を確立することができたと自負する。

2016年度および2017年度は、それまでの研究蓄積をもとに、研究成果の公表に努めた。国内の英語教育関連学会だけでなく、様々な国籍の研究者が集う国際的学会や、香港、タイなど日本人の「アジア英語留学」の留学先となる国・地域での研究発表も行い、フィードバックにより多くの知見を得ることができた。また関連して、日本人大学生の言語観や擬似的英語体験施設などに関する、研究の発展を期す調査・発表も行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

William Petruschak, Ken 'ichiro Higuchi, The Significance of Pre-Departure for University-Run Short-Term Study-Abroad Programs, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第17巻、2017、15-21

William M. Petruschak, An Outline of Perceptions of Study Abroad in the USA, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第16巻、2016、23-30

樋口謙一郎、仲瀬、「アジア英語留学」の現状と展望、中部地区英語教育学会紀要、査読有、第45巻、2016、141-146

William M. Petruschak, Short-Term English Study Abroad: The Changing Equation and Asian Options, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第15巻、2016、19-31

William Petruschak, Ken 'ichiro Higuchi, The Challenge of "Fine-Tuning" a Short-Term Study-Abroad Program: Problem Areas and Options for Improvement in the Case of Sugiyama's "Overseas Program in Language and Culture B", 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第14巻、2015、

1-10

〔学会発表〕(計 11 件)

William Petruschak, Higuchi Ken'ichiro  
“The Shift of Japanese Overseas English Study Programs to Asia Pacific Nations: Factors and Consequences” Sripatum University Conference 2017, at Sripatum University, December 14, 2017

Kiyoshi Naka, Higuchi Ken'ichiro  
Japanese University Students' Perceptions of English and the Relationship between Language and Society” Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, at University of Wollongong, June 28, 2017

William Petruschak, Effects of Short-Term English Study in Asia on Japanese Attitudes Toward “Acceptable English”, NEAR Conference 2017, at Niigata Prefectural University, June 10, 2017

樋口謙一郎、仲潔、アジア英語留学の「商品化」と「消費」、言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム、香港大学逸夫教樓、2016.7.17

樋口謙一郎、仲潔、「アジアの英語」の認識をめぐる一考察：研究、教育、留学の現状から、第 46 回中部地区英語教育学会三重大会、鈴鹿医療科学大学白子キャンパス、2016.6.26

Higuchi Ken'ichiro, Why Japanese English Learners Head for Asia: Understanding the Current Situation Based on Literature Review, International Multidisciplinary Academic Conference Thailand 2015 in Support of UNESCO's 70th Anniversary, Hotel Dvaree, Jomtien, Thailand, November 3, 2015

樋口謙一郎、仲潔、アジア英語留学の現状と展望、第 45 回中部地区英語教育学会和歌山大会、和歌山大学、2015.6.28

William Petruschak, Ken'ichiro Higuchi, Short-Term Overseas English Study for Japanese: The Changing Equation and Asian Options, CLASS Annual Research Conference, University of Guam, March 10, 2015

仲潔、言語観教育による「ゆさぶり」：言語権教育の可能性を求めて、第 10 回香港国際日本語教育・日本研究シンポジウム、香港大学專業進修学院、2014.11.16

樋口謙一郎、フィリピン英語研修への視点、日本「アジア英語」学会 第 34 回全国大会、京都外国語大学、2014.6.28

仲潔、フィジー英語留学と若者たち、日本「アジア英語」学会 第 34 回全国大会、京都外国語大学、2014.6.28

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
ウィリアム・ペトルシャック グアムの“熱”に吹かれて UOG 訪問記  
樋口謙一郎 海外留学を研究する  
(上記とともに A Window Open to the World (国際交流センター報 第 7 号(椋山女学園大学) )、  
[http://ciep.sugiyama-u.ac.jp/images/pdf\\_word/a\\_window\\_open\\_to\\_the\\_world\\_07.pdf](http://ciep.sugiyama-u.ac.jp/images/pdf_word/a_window_open_to_the_world_07.pdf))

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
ウィリアム・ペトルシャック(PETRUSCHAK, William)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授  
研究者番号：60176576

(2) 研究分担者

樋口 謙一郎(HIGUCHI, Ken'ichiro)  
椋山女学園大学・文化情報学部・准教授  
研究者番号：40386561

仲潔(NAKA, Kiyoshi)  
岐阜大学・教育学部・准教授  
研究者番号：00441618

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：

(4)研究協力者 ( )